時間後描写）画像は劣る。血中クリアランスの測定結果からも同様のことがたしかめられた。現在のところでは骨スキャンには ^{99m}Tc-Diphosphonate, -Pyrophosphate がすぐれていると考えられるが，臨床応用については尚，研究の余地がある。

8．甲状腺機能亢進症性全身脱毛症

永田　凱彦　　広田　嘉久
（熊大・放）

我々は，全身脱毛症を伴った甲状腺機能亢進症を ^{131}I 投与により，両者を治療し得た，興味ある1症例を経験した。

患者は，41才の男性，甲状腺機能亢進から来ると思われる自覚症状と共に脱毛を認め，当科（熊大放）に受診，入院した。RI 検査により甲状腺機能亢進症と診断し ^{131}I-7 mci を投与，経過観察を続けた。^{131}I 投与後6ケ月目で各種自覚症状の軽度改善と共に，かすかながら全身の発毛を認め，3年目に自覚症状，RI 検査値の著しい改善に伴い，脱毛症も著しい改善を認めた。

本症例は，RI 検査，並びに RI 治療により，著しい改善を見た脱毛症の1例ということで興味ある1症例と考え，本会に報告した。

9．胃シンチグラムについて（続報）

○金子　輝夫　　松本　政典　　片山　健志
（熊大・放）

従来の並行型コリメータのかわりに新たに試作した Di/con コリメータをコンバージングコリメータとして用いて得たイメージについて検討した。すなわち，予め ^{99m}Tc-pertechnetate 約30μCi 静注し，胃の目的の部分を大略ガンマ・カメラの視野の中央に来るよう照準した。ついで ^{99m}Tc-pertechnetate 3 mCi を静注し，経時的に16秒間のイメージを磁気テープに記録し，後に35mmフィルムに撮影し検討した。このコリメータは並行型コリメータ（4000holes）に比し，高感度で拡大像が得られ，病変部の観察に適当であると思われた。胃悪性腫瘍の数例について症例を供覧した。

10．^{198}Au コロイドによる胃のリンパ動態について

西山　邦彦　　古川　保音　　尾関巳一郎
（久大・放）

我々は ^{198}Au コロイドを胃内壁に，胃ファイバースコープを使用して注入し，胃よりのリンパ流を24時間，48時間後にシンチグラフィーで追求した。その結果は(A)群，連続的リンパ流像を示すもの，(B)群，不連続を示すもの，(C)群，限局性に残留するものの三群に分けることが出来た。(A)群は正常なリンパの流れを示すもので，良性疾患及び数例の早期癌が含まれた。(B)群は流路を連続的に追跡出来ないもので若干の進行癌及び良性疾患にもみられる。(C)群は進行癌に多く見られるが，良性疾患にも数例みられる。良性疾患では注入手技が関連していることも考えられる。今後症例を重ねて，検討を加えてゆきたい。

11．肝の Processed image（予報）

矢野　　潔　　古賀　尚充
（福岡県立柳川病院・放）

我々は肝の processed image について検討しているが，それに先立って肝の集積率を検討した。之は20秒の Time frame を作り，肝の Higest activity のある部と思われる部に RoI を設定し RoI Curve を画き T½ を求めてそれより肝蓄積係数（KL）を求めた。

^{99m}p hyfale の場合は正常では T½ 3分 KL = 0.22 であるが，肝硬変症の場合は T½ が5分となり KL は 0.13 と変化した。T½ は肝硬変の場

Presented by Medical*Online